



2025年度 12月号

No. 8

たくましく ゆたかに 大地を吹く 風になれ

simba 獅子波

ナイロビ日本人学校

The Nairobi Japanese School

P.O. Box 948 –00502 Karen Nairobi Kenya

Tel : 0746 – 978 – 378

E-mail : njs.main@gmail.com

南西アジア中東アフリカ地区日本人学校等校長研究協議会を終えて
「本校のよさ」

校長

約10年ぶりにケニア・ナイロビで校長研究協議会が、去る11月5・6日に開催されました。地区内の日本人学校等校長19名による協議会で、主として日本人学校の存続の在り方、危機管理、学校運営や経営等について、様々な内容について協議しました。また、最終日は、ナイロビ日本人学校の視察訪問があり、先生方の授業や環境整備の現状を視察されました。

本校視察後、各校長から派遣教員の授業における指導レベルの高さ、特に複式指導やICT機器の活用、英語教育について、すば抜けて素晴らしいと褒めていただきました。また、児童生徒についても、「意欲的に学習に取り組姿が素晴らしい。休み時間は自ら近寄り、しっかりと挨拶ができ、礼儀正しさにも感動しました。」とお褒めの言葉をいただきました。校長として、児童生徒の頑張りや、派遣教員のそれぞれのよさを分かっていただき、本当にうれしかったです。

また、学校の環境については、「老朽化は進んでいるが、文部科学省から指摘されていた環境整備についてもきれいに整備され、学習にとても適している学校ですね。」と皆さんから褒めていただきました。ケニアパワーによる伐採から始まり、校舎に隣接し屋根以上に高くなつた木々、児童生徒に危害を与える木々などを伐採し、児童生徒が遊びまわれる中庭ができたこともよかったです。この中庭に関しては、児童生徒だけでなく、保護者や来客なども心が休まり、ちょっとした運動ができる場所にできたらと考えています。

さて、年末を迎えるにあたり、4月からの本校のよさについて、いくつかふり返ってみました。イマージョン教育、ICT教育、日本語教育の3点です。

まずは、現地教員によるイマージョン教育「図工美術、体育」です。特に、図工美術は、日本人教師は入らず、現地教員だけによるオールイングリッシュでの授業です。編入したばかりの児童生徒は戸惑いも感じますが、すぐにはかの児童生徒と同じように打ち解けて、自ら英語を使い現地英語教員とコミュニケーションを図っていました。次に、体育ですが、今年は派遣教員の補助として現地教員を配置し、安全管理と指導補助をお願いしました。現地教員は様々な場面で自ら動き、体育の補助員として頑張っています。英語の時間だけでなく、英語を使う場面を多くすることが、グローバルな人材育成にも繋がると考えています。次年度は、さらにイマージョン教育の充実（音楽科・家庭科など）を推進していきたいと考えています。

次に、アフリカ地区ICT教育拠点校として、文部科学省が打ち出しているギガスクール構想としてのタブレットや大型モニターを活用した教科担任制による複式指導でのICT機器を

使った授業では、児童生徒のアウトプットの素晴らしさが目立ってきました。今後は、プログラミング教育にも取り組んでいきたいと考えています。

最後に、校内研究の重点として、本年度から取り組んでいる授業ラストのまとめ「ふり返り200字～500字」については、児童生徒が、一単元で学んだことを授業の終わり5分程度で、学んだことを自分なりにまとめる事に取り組んでいます。年間を通して、さらにはこの日本人学校に在籍する限り続けることで物凄い力が付いてくると考えます。私が最後に退職した学校でも実施していましたが、全国学力調査で見違えるほど成果が現れました。このことは、次年度も継続して続けていきますので、保護者の皆様も成果を楽しみにしていてほしいと思います。

最後に、今回の南西アジア中東アフリカ地区日本人学校等校長研究協議会で得た他校のよさを学んで、本校の学校教育に生かしていきたいと考えています。「学ぶ」という言葉の語源は「まねる」こと。令和8年（2025年）、校長としてナイロビ日本人学校が、「子供が行きたい学校 保護者が行かせたい学校」にさらになるように、多くのことを学んでいく所存です。

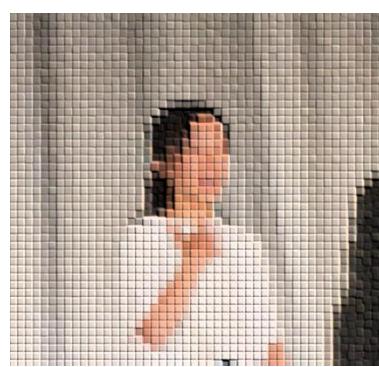
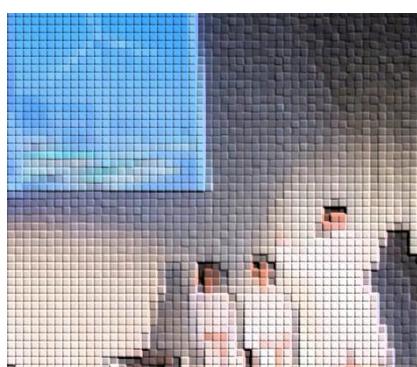
次回の学校だよりは、新年になります。アフリカの地で年末ご多忙の折ではございますが、お体にお気を付けて良き年をお迎えください。来年もナイロビ日本人学校の様々な活動にご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

English Time

英語科

～英語で表現する喜びが、子どもたちを動かしはじめています～

今年度の学習発表会は、本校の英語教育にとって明確な転換点となりました。長年続けていた英語劇から一歩進み、英語そのものを「表現の手段」として示す発表形式へと刷新したからです。ビギナーでは歌を通して英語の音とリズムをのびやかに表現し、インターミディエートは英文暗唱に挑戦し、声・間・表情を使って“伝わる英語”的なあり方を体得しました。そして Advanced では、1分間スピーチを通して、自分の考えを論理的に組み立て、聴衆に届ける姿勢を示しました。



写真にあるインターミディエートの真剣な眼差し、スピーチに臨むアドバンスの堂々とした姿。そこには、英語が単なる「教科」から、**自分を表現するための道具へと変わりつつある姿**が、はっきりと表っていました。保護者の皆様からは、「日頃の学びが確かに積み上がっている」「こんなに自信をもって英語を話せるようになっていたとは…」といった声が寄せられ、子どもたちにとって大きな励みとなりました。

■ 日々の積み重ねが、生徒を変えていく

こうした変容は、決して一朝一夕に生まれたものではありません。英語科では、習熟度別のクラスそれぞれの段階で確かな力を積み上げてきました。

- **Beginner**：英語の音・リズム・基本表現の定着
- **Intermediate**：英文のまとまりを理解し、声に出して“伝える力”を育成
- **Advanced**：自分の考えを構成し、英語で発信する訓練



後期に入り、この学びの連続が確実に形となって表れています。イングリッシュトリップでも、**自分の英語で質問し、説明し、コミュニケーションを成立させる姿**が随所に見られました。イングリッシュトリップで大切にしたいのは、「行って終わり」にしない姿勢です。現地で見た場面や感じた思いを振り返り、自分の言葉で英語にすることで、体験は確かな学びへと変わります。



2025年のEnglish Timeの締めくくりとして、トリップでの経験をプレゼンテーションとしてまとめる活動を計画しています。楽しい行事で終わらず、体験を言語化し、相手に伝える力へとつなげることで、英語学習の価値をより深めていきます。



■ “使える英語”への意欲：資格挑戦の広がり

今年は、英検準2級や2級に挑戦する生徒が大きく増えました。現在、全校39名中13名が準2級以上を取得しており、保有率は約33%に達します。これは、3人に1人が上位級に到達している計算で、学校規模を考えても非常に高い割合です。この数字は、単なる資格取得への関心ではありません。「英語を使えるようになりたい」という内側からの動機が高まっている証拠です。こうした前向きな姿勢は、今後の学びを力強く後押しします。

■ 次のステージへ：書く力の強化

今回の発表会を通して、子どもたちの「表現する力」は確実に伸びました。今後、本校の英語教育をさらに発展させていくうえで欠かせないのは、**ライティング（書く力）の強化**です。「聞く」「話す」「読む」は、この一年で大きく伸びました。だからこそ次は、**自分の考えを、自分の言葉で書き切る力を育てる段階へと進みます**。English Timeは、これからも子どもたちの可能性を最大限に広げるべく、確かな指導と新たな挑戦の機会を創り続けていきます。

学習発表会のふりかえり

小5児童

僕たちの学級は、授業で学んだことを「劇」で発表しました。本番まで、みんなで何度も話し合い、台本やスライドを作りました。

僕は、画像に音声をつける作業を担当し、一生懸命作成しました。本番では、学級の仲間おかげで成功させることができました。

このように、何かを作り上げて成功させるまでには、目に見えない所で多くの人たちの努力や頑張りがあることに気づいた学習発表会でした。次回は今回得た経験を生かし、小学部高学年として、下級生を導きたいです。

私はこの学習発表会で身につけた力と、これから意識していきたいことがあります。私が身につけた力は、「内容を分かりやすくまとめる力」です。台本作りの時、分数の足し算の仕方を分かりやすく伝えるために、文章の要約や図の使用などの工夫をしたときに身につきました。これからは、期限までに提出物を終わらせたいです。

そのために、見通しをもち、最優先事項を優先して、時間の有効活用がうまくできるような人財になりたいです。

今回の学習発表会は、去年の二倍は大変でした。でも、その分がんばったところが二つあります。一つ目は、「心構え」についてです。最初はあまり気力がなく、演技や色々なところでそれが出てしまいましたが、最後は全力で取り組むことができました。

二つ目は、「演技」です。お客様に伝わるように、様々な工夫をしました。私が6年生になった時、全校をひっぱれるように今回得た経験をこれからも生かしていきたいです。



ナイロビに赴任して半年が経ちました。初めての海外勤務に不安もありましたが、今は「ナイロビ日本人学校で働けて本当に良かった」と心から思っています。この学校には、少人数だからこそ実現できる丁寧で深い学びがあり、子どもたち一人ひとりとしっかり向き合える日々に大きなやりがいを感じています。

また、日々高め合える関係の同僚たちと、授業や行事をより良くしようと語り合う時間は、とても有意義で、貴重な学びの連続です。授業研究や学校行事への取り組み、そして教員自身の挑戦も後押ししてくれる風土があり、この半年で本当に多くのことに挑戦させてもらいました。

特に印象に残っているのは「親子スポーツ」です。不定期で開催されるこの行事において、私は日本の武道である居合道や剣道を、ナイロビの地で紹介し、親子で共に楽しんでいただく機会を持つことができました。多くの方が参加してくださいり、日本の伝統文化を通じて心が通い合う時間を共有できたことは、何にも代えがたい感動でした。

加えて、体育の授業でも剣道を実施することができました。竹刀を持つのも初めてという子どもたちが多い中、「礼に始まり礼に終わる」という武道の精神を大切にしながら、構えや足さばき、打ち込みの基本を一つずつ伝えました。何より印象的だったのは、子どもたちのまっすぐなまなざしと、毎回「真剣」に取り組む姿です。「今日も剣道ある?」と楽しみにしてくれる声が多く、指導する私自身も力をもらいました。剣道を通して、心と体のバランス、集中力、そして互いを尊重する姿勢が育まれていくのを感じました。

さらに、理科教員としては、ケニアならではの自然体験も大きな財産となっています。サファリでは、日本では出会うことのできない動物たちの姿に圧倒されましたが、それ以上に感動したのは、シーズンによって動物たちの表情や行動がまったく違うということです。雨季の潤った大地にくつろぐ姿、乾季の厳しさの中で生き抜くたくましさ——命の営みのリアルさを五感で感じることができました。こうした経験が、理科の授業に深みを与えてくれるだけでなく、教員としての視野を大きく広げてくれています。

ナイロビナショナルミュージアムとの連携授業も実現し、子どもたちとともに本物にふれる学びができたことも印象深く、教育の可能性を強く感じました。

まだまだケニアの魅力は尽きることがなく、これからも子どもたちとともに、新しい発見を積み重ねていきたいと思っています。このナイロビという異文化の地で、日々学び続けられることに、心から感謝しています。



アフリカ学習を通して国際理解を深める

— 15年目を迎えた本校の伝統的学び —

教頭

本校では、国際理解教育の一環として、アフリカで活躍されている方を講師にお招きし、アフリカの文化や自然、人々の暮らし、そして仕事などについて学ぶ「アフリカ学習」を継続して実施しています。

学校沿革によると、平成23年11月9日に大原繁氏をお迎えし、「ケニアの昆虫について」お話をいただいたのが第1回目のアフリカ学習でした。それ以来、毎年多くの講師の方々にご協力をいただき、子供たちはアフリカという地域を身近に感じながら、多様な価値観や生き方に触れる機会を重ねてきました。今年で15年目を迎えることになります。

本年度は、6月10日にJICA（国際協力機構）の○○氏を講師としてお迎えし、「厳しい環境を生きるアフリカの人たち」というテーマでご講演いただきました。○○氏は、実際にアフリカの地で生活し、現地の人々と共に活動されてきた経験をもとに、アフリカの人々の暮らしや前向きな生き方について語ってくださいました。子供たちは、現地の写真や体験談に真剣な眼差しで耳を傾け、「困難の中でも笑顔を絶やさない人々の強さに感動した」「自分も将来、海外で働いてみたい」といった感想が多く寄せられました。これらの感想は、現在、校舎1階に掲示しています。

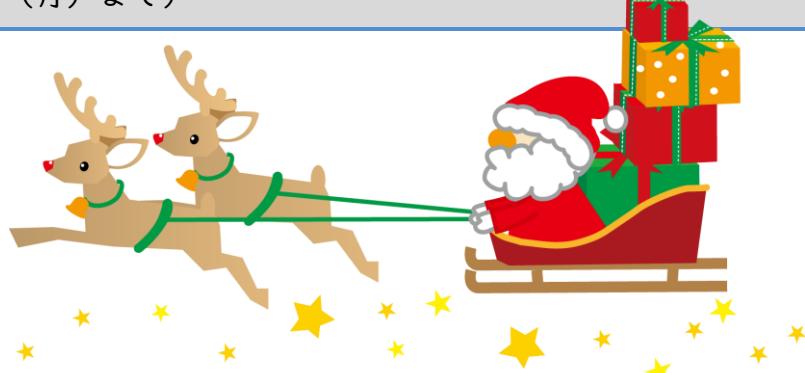


アフリカ学習は、単に国の話を聞く機会ではなく、「日本とは異なる環境の中で生きる人々の姿を通して、自分自身の生き方を見つめ直す学びの場」です。これからも本校の伝統的な学習として継続し、アフリカの地を通して日本を考え、子供たち一人ひとりが自らの将来や夢を描くきっかけとなることを願っています。



I 2月の行事予定

日付	内容
1日（月）	清掃週間（始）
2日（火）	児童生徒会
5日（金）	冬休み前集会
6日（土）	冬季休業（～1/5（月）まで）



I 月の行事予定

日付	内容
5日（月）	冬季休業（終）
6日（火）	冬休み明け集会
7日（水）	身体測定（体育着登校）
12日（月）	書初め・百人一首大会
13日（火）	水泳教室①
15日（木）	キャンプ学習（小3～小5）【～16日（金）まで】
20日（火）	アフリカ学習（予定）
21日（水）	水泳教室②
22日（木）	ジャリブ
23日（金）	特別清掃・PTA役員会／学校運営委員会
24日（土）	親子スポーツ
27日（火）	児童生徒会・校長講話&懇談会
28日（水）	水泳教室③
31日（土）	漢字検定

